

学生のクレジットカードに対する認識と
所有率・使用率の関係性

轡田 裕行 寺谷 歩子 野上 玲
(早稲田大学 商学部 4年)

I .はじめに

近年、公共料金の支払いや病院での決済など従来は使用できなかった場面でもクレジットカードが利用できるようになり、生活の中で使用できる範囲が確実に広がっている。

カードの機能も、ポイントが貯まるもの、カード機能付きの suica といった複数機能を持ったもの、年会費無料のもの、クレジットカード決済にすることで現金よりも割引されるものなど様々である。カードの発行機関も、銀行や航空会社からドラッグストアまでありカードを所有する機会は生活の様々な場所にあふれている。

こうした状況でクレジットカードを1枚は保有しているという人が圧倒的に多い。実際に82.7%がクレジットカードを保有しており、平均所有枚数は2.9枚である(JCB クレジットカードに関する総合調査 2004 年度版)。ところがその一方で、日本の個人消費に対するクレジットカード利用率は8%に留まっている。他の国の利用率を見てみると、アメリカは約20%、韓国は約60%という数値である(よくわかるクレジット&カード業界 日本実業出版社)。比較すれば日本のクレジットカードの利用率の低さは明白である。日本では保有枚数も利用率も年々増加傾向にはあるのだが、保有枚数の割には使用率が伸びきれていないのが現状である。

そうした中で、学生のクレジットカードの所有率を見てみると45.3%となっており、二人に一人持っているか持っていないかという状況である。全体平均よりも極端に低い。また所有率だけでなく今後のクレジットカードの利用意向も低い(クレジットについてのアンケート結果)。確かに学生というのは、社会に出ていないという点で特殊な位置づけになるので、一概に全体平均との比較はできないかもしれない。だが、その一方で学生は数年後社会に出ればクレジットカード会社のメインターゲットとなる存在である。卒業後は、クレジットカードの利用限度額も上がり、カードを使う場面も当然増えるであろう。そうした今後の利用が期待される学生の利用率や利用意向が低いことはクレジットカード業界にとって好ましいことではないはずである。

そこで我々は、日本の低いクレジットカード使用率を上げていくためには学生にカードに慣れ親しんでもらい、所有率、使用率及び利用意向を向上させることが重要ではないかと考える。まず始めに学生の所有率及び利用意向の低さの原因はどこにあるのかを考えていく。この原因を明らかにした上で、学生の所有率・使用率を上げる提案を行いたい。

Ⅱ．仮説

以上で述べたように学生のクレジットカードの所有率・使用率及び利用意向は低いわけだが、それにはクレジットカードに関する知識・メリット・デメリットの捉え方が関わっていると我々は考える。例えば、クレジットカードがごく一部の店舗でしか使用できないと思い違いをしていれば、クレジットカードを持っていても意味がない、不便だ、と思ってクレジットカードを新たに所有したり利用したりしようという意欲はわかないであろう。したがってクレジットカードが使える範囲や補償制度など正しい知識を持っていることは、クレジットカードの所有率・使用率の上昇につながると考えられる。

また使用率や所有率が上がらない一因としてクレジットカードへの過剰な不安があるのではないかと考える。クレジットカードによる犯罪やスキミングの被害、さらにはクレジットカード会社からの個人情報流出など、クレジットカードの負の側面はニュースでも度々取り上げられている。当然この負の部分もクレジットカードが持つ一面として理解されていなければならないものであろう。しかしながら、我々は日常生活の中でクレジットカードの負の情報に触れる時間があまりに多いのではないか。それに比べて、クレジットカードのメリットの部分が報道されることはほとんどない。マスメディアでメリットを訴えかけるものとしてはクレジットカード会社の CM 程度である。こうしてクレジットカードの負の部分が必要以上に大きく捉えられることで、カードを持つこと・使うことに対する意欲が減退すると思われる。

上記で述べたように、デメリット・不安感と比較するとメリットの情報に触れる機会は少ないわけだが、メリットを強く感じれば当然使用率は上がると考えられる。またメリットを感じていればカードを持つという意欲も起こると思われる。

よって、独立変数を「基本知識」「メリット」「デメリット・不安感」とし、従属変数を「使用率」「所持率」とする以下の3つの仮説を立てる。

1. クレジットカードに関する基本知識はカードの所有率・使用率と正の相関がある。
2. クレジットカードのメリットは所有率・使用率と正の相関がある。
3. クレジットカードのデメリット・不安感は所有率・使用率と負の相関がある

Ⅲ. アンケート

●調査方法

首都圏の大学生 103 人を対象にアンケートを行う。

このアンケートはクレジットカードに関する知識を問うものとクレジットカードに対する考え方を問うものから構成されている。クレジットカードに関する知識を問うものは 21 項目あり、はい・いいえの選択式で回答してもらう。クレジットカードに対する考え方を問うものは 47 項目あり、1～5 の 5 段階から自分の考え方に最も近いものを選択して回答してもらう。

クレジットカードに対する考え方を問うものは、クレジットカードのメリット及びデメリット・不安感をどの程度感じているのかという2つに分けられる。具体的なメリット、デメリット・不安感の分類は以下のようなものとなる。

(1)メリット

- ① 購入機会を逃さない
- ② クレジットカードはカッコいい、一種のステータスとなる
- ③ ポイントが付き貯められること
- ④ 現金よりも安全である
- ⑤ 現金よりも割引される
- ⑥ クレジットカードを所有していることで得られる様々なオプション(カード会社から送付される情報誌やクーポンを指す)
- ⑦ 手軽感

(2)デメリット・不安感

- ① カードに対する漠然とした不安感
- ② 自己管理が必要である
- ③ カード払いは借金と同じである、もしくは借金につながるものである
- ④ 防犯上の不安

この 11 項目についてそれぞれ 2～6 項目の質問を行う。

またアンケートのはじめにクレジットカードの所有を問い、所有している場合はひと月の平均的な利用額及

び利用回数を答えてもらう。所有していない場合は今後所有するつもりかどうかを答えてもらう。この回答によって、103 人の回答者を 4 つにグルーピングする。

- (1)所有者の積極層:カード所有者で月額利用金額もしくは利用回数が平均以上
- (2)所有者の消極層:カード所有者だが月額利用金額かつ利用回数が平均以下
- (3)非所有者の積極層:カード非所有者だが今後カードを所有したいと考えている
- (4)非所有者の消極層:カード非所有者で今後もカードを所有するつもりはない

この 4 タイプごとに回答を比較・検証する。

IV.検証結果

●信頼性分析(アルファ)

まず初めに、この検証が果たして正しいものを測っているかを確認しなければならない。そのために、アンケートにおける信頼性を測定した。削除しなければアルファが一定の値(0.5~0.6)に満たない場合、信頼性向上のためにその質問項目を削除した。

表①

変数	質問項目	アルファ係数
メリット/購入機会	問 1、7、9、21、28	0.687
メリット/かっこよさ	問 3、13、46	0.752
メリット/ポイント	問 4、8、24、33	0.799
メリット/安全性	問 10、25	0.684
メリット/割引	問 12、37、47	0.776
メリット/オプション	問 27、42、45	0.75
メリット/手軽感	問 20、23、31、32、34、41	0.765
デメリット・不安感/漠然とした不安	問 14、18、29、43	0.711
デメリット・不安感/自己管理	問 2、17、30、36、40	0.598
デメリット・不安感/	問 5、22、39、44	0.741

借金 or 借金につながる		
デメリット不安感/防犯上の不安	問 6、11、15、26、35	0.809

この結果から、信頼性の低い3つの質問(問 16、19、38)を削除し、具体的な分析を行ってゆく。

●相関分析

上記の4つの層別にアンケートの平均を出し、使用率に関しては相関係数を、所有率に関してはt値とp値を出した。細かい項目ごとの考察は後の提案部分で行うため、ここでは仮説に対する考察に焦点を絞る。

表②

	所/積	所/消	非/積	非/消	所有	非所有
知識	17.17647	16.47619	15.333333	13.22222	16.78947	14.62963
メリット	3.593627	3.138718	3.282936	2.666492	3.247661	3.077455
デメ、不安	3.108824	3.707142	3.716666	3.761111	3.439473	3.746296
購入機会	4.035294	3.385714	3.522222	2.822222	3.676316	3.288889
かっこいい	3.220588	2.97619	2.944444	2.472222	3.085526	2.787037
ポイント	3.75	3.089285	3.138888	2.444444	3.384868	2.907407
現金より安全	2.955882	2.678571	2.555555	2.555555	3.004386	2.777778
割引お得	3.892157	3.388888	3.629629	2.555555	3.614035	3.271604
オプションお得	3.375	2.95238	3.375	2.888888	3.141447	3.21296
手軽感	3.72549	3.297619	3.5	2.888888	3.489035	3.296296
漠然とした不安	2.933824	3.642857	3.75	3.583333	3.325658	3.694444
自己管理	3.741177	3.938095	4.044444	3.844444	3.85	3.977777
借金	2.889706	3.714285	3.638888	3.638888	3.345394	3.638888
防犯上の不安	2.870588	3.533333	3.611111	3.8	3.236842	3.674074

※一般的な相関係数に関する知識として…

0.7～1.0(-0.7～-1.0)かなり強い相関がある

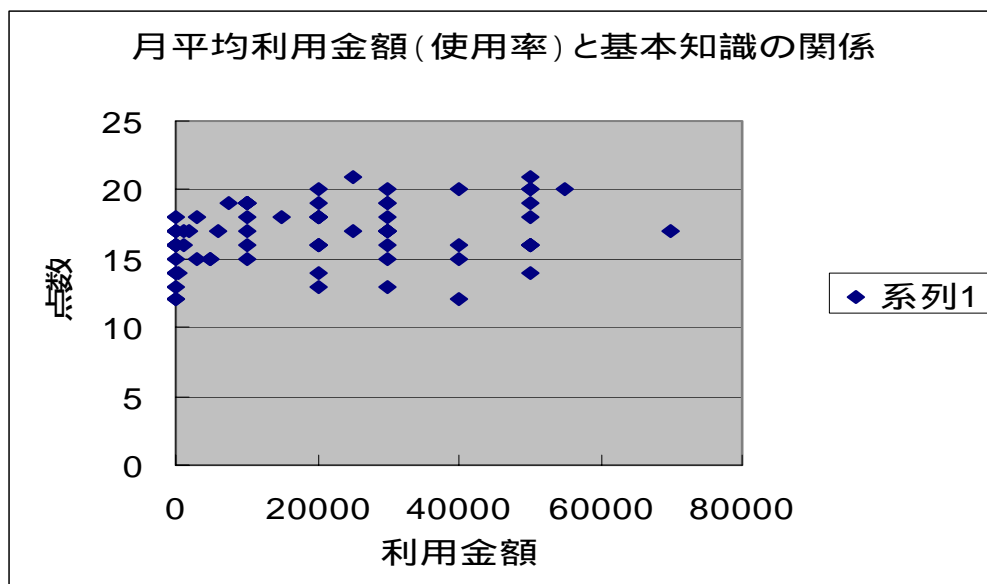
0.4～0.7(-0.4～-0.7)かなり相関がある

0.2～0.4(-0.2～-0.4)やや相関がある

0～0.2(0～-0.2)ほとんど相関がない

所有/非所有に関するデータ		
	t 値	p 値
知識	4.006	0
メリット	3.378	0.02
デメリット・不安	-3.543	0.02

①知識について

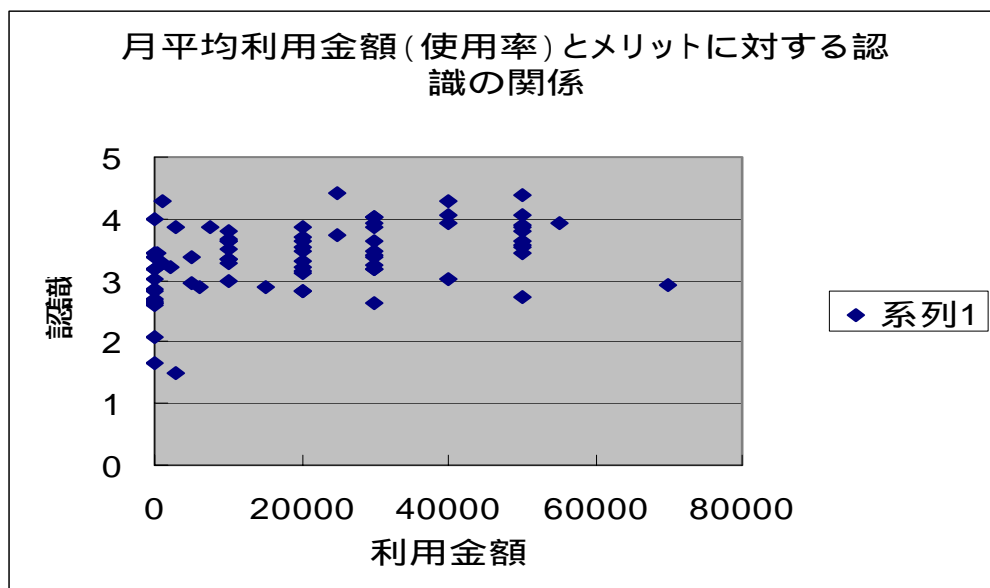


相関係数 0.266601103

上記グラフより、使用率に関してはやや正の相関がある。

表②より、所有率に関してはかなり強い正の相関がある。また、非所有者の積極層と消極層では積極層の方が大きく点数が高かった。

②メリットについて

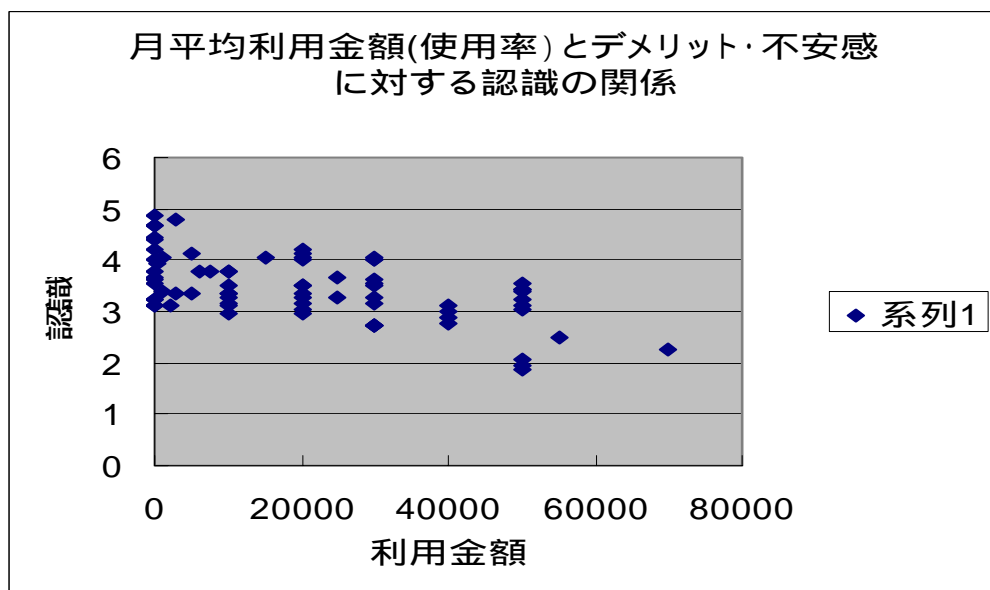


相関係数 0.408020981

上記グラフより、使用率に関してはかなり正の相関がある。

表②より、所有率に関してはやや正の相関がある。また、非所有者の積極層と消極層では、積極層の方がかなり強くメリットを感じている。

③デメリット・不安感について



相関係数 -0.576553261

上記グラフより、使用率に関してはかなり負の相関がある。

表②より、所有率に関してはかなり負の相関がある。また、所有者の消極層、非所有者の消極層、積極層において、認識に差がない。

IV. 考察

検証に基づく考察は、以下の通りである。

1. クレジットカードに関する基本知識は、カードの所有率に対してはかなり強い正の相関があり、使用率に対してはやや正の相関がある。
2. クレジットカードのメリットは所有率に対してはやや正の相関があり、使用率に対してはかなり正の相関がある。
3. クレジットカードのデメリット・不安感は、所有率に対してはかなり負の相関があり、使用率に対してもかなり負の相関がある。

ただし、所有率・使用率ともにメリットよりも、デメリット・不安感との相関の方が強い。

以上のように、相関の強弱は様々だが本研究の仮説は概ね支持されたと言える。

V. 提案

本研究は、日本の低いクレジットカード利用率を上げていくために、将来メインユーザーとなる学生にカードに慣れ親しんでもらい、所有率や利用率、利用意向を向上させることを目的としている。そのために学生の所有率、利用率及び利用意向の低さの原因はどこにあるのかを検証してきた。

これからその検証結果をもとに提案をしていく。

我々はアンケート回答者を以下の4つに分けた。

- (1)所有者の積極層:カード所有者で月額利預金額もしくは利用回数が平均以上
- (2)所有者の消極層:カード所有者だが月額利用金額かつ利用回数が平均以下
- (3)非所有者の積極層:カード非所有者だが今後カードを所有したいと考えている

(4)非所有者の消極層:カード非所有者で今後もカードを所有するつもりはない

この4つの層ごとに検証結果に特徴が出ているため、提案は層別に行う。

(1)の所有者の積極層に今後の提案がないわけではないが、この層を理想的なユーザーと位置づけ、彼らのクレジットカードに関する意識に(2)~(4)の層を近づけることが利用率上昇につながると考え、これを目指す。

1. 非所有者の消極層へのアプローチ

今回のアンケート結果を見たとき、非所有者の消極層の割合は1割に満たないことから学生全体においてもこの層は少ないことが推測される。また、非所有者の消極層はクレジットカードを保有していない上に保有意欲もないので、クレジットカード会社との接点が少なくこの層に的を絞ったアプローチが非常に困難である。果たしてこの層に莫大なコストをかけてそれに見合ったリターンが得られるのか疑問である。このことから我々は現状の非所有者の消極層に対するアプローチは行わないことが最善であると考えた。

しかし今後この非所有者の消極層を拡大させない対策を行うことは可能である。

ここで非所有者の消極層を分析してみると、基本知識が低く、メリットの感じ方が非常に弱いことが分かる。デメリット・不安感も4グループの中で最も高い数値だが、所有者の積極層を除いては0.1未満の差に留まっている。以上のことより、非所有者の消極層の特徴は基本知識不足とメリットの感じ方の弱さにあるとすることができる。

メリットの各項目を見てみると、各項目の差は若干あるが全体として全ての項目のメリットの感じ方が低い。7項目の中でどの項目にメリットを感じているかの順番付けを行うと他の3つの層と比べて、『現金より割引かれる』と『ポイントを貯められる』という2つの項目が極端に低いことが分かる。さらにアンケートの『キャッシュバックされるクレジットカードがある』『ポイントを貯められ、現金決済よりも得するクレジットカードがある』という基本知識を問う項目の正答率を見ると、非所有者の消極層以外は91.5%だったのに対して非所有者の消極層は68.2%とかなり低かった。このことからメリットに感じていないのは知識が無いからだと考えられる。

上記のことより今後非所有者の消極層を拡大させないためには、知識をつけてもらうことすなわちクレジットカード教育を行うことが必要なのではないだろうか。そこで我々は、高校生へのクレジットカード教育を提案する。高校では基本的に大学のような選択制の授業ではないので、全体にアプローチをすることが可能になる。クレジットカード教育によって、クレジットカードを所有できる年齢になるまでに一定の基本知識を

身につけられることが予想され、非所有者の消極層を生み出す可能性が減少すると考えられる。また、クレジットカード教育は規模が大きなものとなり、しかも長期間にわたる継続的なものであることが望ましいので、1社のみでの取り組みでは難しい。クレジットカード業界全体で行っていくことが必要になる。

2. 所有者の消極層及び非所有者の積極層へのアプローチ

●所有者の消極層

クレジットカードを保有しているにもかかわらず、使用率の低いこの層を所有者の積極層と比較するとその相関係数は、知識が0.266601103、メリットが0.408020981、デメリット・不安感が-0.576553261である。知識、メリット、デメリット・不安感の全ての項目が使用率には相関があるのだが、最も相関の強いデメリット・不安感を重要視する。

非所有者の積極層

非所有者の積極層はクレジットカードを保有する意欲はある層なので、持った後にいかにクレジットカードを利用してもらうかが課題になる。始めに、ここでは保有意欲があることで将来の保有につながることを考え、実際に保有させるためにはという段階はふまないことを述べておく。

所有者の積極層と比較すると、知識の不足、メリット差が約0.3、デメリット・不安感の差が約0.6あることが分かる。知識は考察結果で明らかになったように、知識が所有率と正の相関があることに由来する。だが先ほどことわったように、将来の所有は約束されていると考えるのでここでは知識を持ってもらうことは考えない。クレジットカードを保有したときに消極層にならないために、所有者の消極層と同じようにデメリット・不安感を重要視する。

よって非所有者の積極層と所有者の消極層のグルーピングは異なるが、デメリット・不安感を取り除いていくという今後の方針は共通と言える。

デメリット・不安感の4つの中でも『自己管理が必要』の数値が2つの層で最も高い。だが、自己管理ができなければカード破産などにつながり、優良顧客獲得のためにはこの意識は必要不可欠である。実際、所有者の積極層でもこの項目は最も高くなっている。したがって、自己管理の項目よりもむしろ『漠然とした不安』『防犯上の不安』『クレジットカードは借金につながる』という残りの項目の数値を下げるのが重要である。

この数値を下げるために我々は以下のことを提案する。

1. ダイレクトメールの利用

『漠然とした不安』『防犯上の不安』というクレジットカードに対する負の感情を和らげるために、ダイレクトメールを利用する。ダイレクトメールを利用する理由は以下の2点である。

1 点目として、ターゲットがクレジットカード所有者なのでクレジットカード会社は既に顧客情報を所持しており、発送が容易であり、コストパフォーマンスが高いことが挙げられる。

2 点目として上記の不安を取り除くためにクレジットカード会社が取り組んでいる対策を効果的に伝えられるのが紙面上であることが挙げられる。クレジットカード会社は既に様々な対策を行っているにもかかわらず顧客にうまく伝わっていないのが現状ではないだろうか。アンケート結果でもICカード化によってスキミングのリスクが減っていることや、万が一不正使用があってもその金額をカード会社が負担してくれることに関する質問の正答率は、所有者の積極層が89.10%であるのに対して非所有者の積極層は63.90%、所有者の消極層は78.90%と差が開いている。よってクレジットカード会社が取り組んでいる対策を改めて伝えることが課題となるが、15～30秒のTVCMで具体的な取り組みを伝えるのは難しい。

以上の2点よりダイレクトメールの利用が最適であると考え。現状でもダイレクトメールは利用されている手段だが、その中身は利用明細やカード会社が行っているキャンペーン情報などが主である。しかし我々が提案するのは、カード会社が行っている対策や犯罪に巻き込まれないための対策、万一被害にあったときの対処方法などに焦点を絞り、具体的に記した冊子を郵送するというものである。まずクレジットカードを作ったときに送付し、その後は状況の変化に応じて新しいものを送付する。1回ではなく状況の変化に応じて送付することで、顧客も新しい情報を常に得ることができるので不安感を軽減させられると考える。

2. 現状CMの改善

『クレジットカードは借金である、借金につながる』という感情を和らげるために、TVCMの改善を提案する。クレジットカードが借金であるという考えはイメージ的な部分が多いのではないだろうか。こういったイメージを改善するためには、視覚的に訴えてイメージを作り変えやすいTVCMが適しているというのが1つ目の理由である。次に、アンケート結果からこのターゲット層が多数派であることが分かるので、マス広告が適しているということが2つ目の理由である。

現状のTVCMはクレジットカードのメリットを訴求するものが大半で、クレジットカードの負の部分にふれているものは少ない。クレジットカードが借金だと感じている顧客に、メリットのみを訴求するCMを行っても逆に不信感を強めることになっている可能性がある。

したがって感情を和らげるためとはいえ、クレジットカードは借金ではないと安易に訴えることは逆効果になると思われる。クレジットカードが借金であるということを直接肯定したり否定したりせず、計画的に利

用しさえすれば便利なものになるということを伝えていく。消費者金融会社が行っている TVCM を想像してもらえれば分かりやすいと思う。

このような CM を流すことで、都合のいい情報だけでなく負の情報も伝えていることになり、さらには増加している自己破産という社会問題に積極的に取り組んでいる姿勢も伝わり、クレジットカード会社のイメージが良くなることも考えられる。また各社それぞれがこういったCMを流せば、消費者の目に留まる回数も増える。こうして、クレジットカードの正しい理解につながり『クレジットカードは借金である、借金につながる』という感情を和らげることができる。

VI. 結び

今回クレジットカードに関する調査を行って想像以上に学生のクレジットカードの所有率・使用率が低いことを実感した。その理由として、クレジットカードの利便性には一定の理解が得られているが不安感を拭い切れない現状が見えてくる。その一方でクレジットカードは携帯電話と融合するなどその機能は日々進化を遂げている。

利便性を追求していくことは必要だが、クレジットカードに対する不安感を和らげる努力はそれ以上に必要であり、そういった努力なしに今後の使用率拡大を実現させることは困難と言えるのではないだろうか。逆に言えば各カード会社及び業界全体でこの問題に取り組むことで、クレジットカードが決済手段として現金にとって代わる日がくるかもしれない。

<参考文献・参考 web>

増淵正明(2004)『よくわかるクレジット&カード業界』日本実業出版社

JCB「クレジットカードに関する総合調査 2004 年度版」

ハイホー・マーケティングサービス(2004)「クレジットについてのアンケート結果」

岩田昭男(2005)『クレジット&ローン業界ハンドブック』東洋経済新報社

付表1：<クレジットカードに関する意識調査>

※このアンケートは無記名になっています。またこのアンケート結果は卒業論文の資料としてのみ使われる
ものです。ご協力よろしくお願い致します。

1、① あなたはクレジットカードを所有していますか？ はい・いいえ

①ではいと答えた方は②と③に進んでください、いいえと答えた方は④に進んでください。

② ①ではいと答えた方に質問です

クレジットカードの一ヶ月の平均利用金額を教えてください ()円

③ ①ではいと答えた方に質問です

一ヶ月の平均利用回数を教えてください ()回

④ ①でいいえと答えた方に質問です

今後クレジットカードを積極的に作りたい、使いたいと思いますか？ はい・いいえ

2、次の文章が正しいと思う場合は「はい」、間違っていると思う場合は「いいえ」を選んでください

- | | |
|---|--------|
| 1. クレジットカードで、公共料金が払えることもある | はい・いいえ |
| 2. インターネットではクレジットカードは申し込めない | はい・いいえ |
| 3. キャッシュバックされるクレジットカードがある | はい・いいえ |
| 4. クレジットカードに関する知識はあると自負している | はい・いいえ |
| 5. クレジットカードはかならず年会費が発生する | はい・いいえ |
| 6. クレジットカード決済の際、サインレスでできるものもある | はい・いいえ |
| 7. IC カード化により、スキミングのリスクが減少している | はい・いいえ |
| 8. クレジットカード利用の際、分割やリボ払いでなければ消費者は手数料
をとられない | はい・いいえ |
| 9. リボルビング払いがどのような支払方法かを説明できる | はい・いいえ |
| 10. クレジットカード犯罪は年々増加している | はい・いいえ |

- | | |
|---|--------|
| 11. どのタクシーでもクレジットカードでの支払いはできない | はい・いいえ |
| 12. 海外旅行で保険がついているカードもある | はい・いいえ |
| 13. 不正使用された場合でも、クレジットカード会社はその金額をまったく保障していない | はい・いいえ |
| 14. 日本では税金もクレジットカードで払うことができる | はい・いいえ |
| 15. クレジットカードの使用限度額は、カード会社から提示された範囲内であれば自分で決められる | はい・いいえ |
| 16. クレジットカードでキャッシングもできる | はい・いいえ |
| 17. ポイントを貯められ、現金決済よりも得するクレジットカードがある | はい・いいえ |
| 18. 個人情報保護のために、クレジットカードの利用額の状態をインターネット上で確認することはできない | はい・いいえ |
| 19. 病院ではクレジットカードでの支払いはまったくできない | はい・いいえ |
| 20. 日本のクレジットカードの所持率、使用率は年々下がっている | はい・いいえ |
| 21. クレジットカードの提示や利用で割引きされる施設がある | はい・いいえ |

3、次の文章に対するあなたの考え方を教えてください。5つの選択肢で最もあなたの考え方に近いものを選択してください。

【1:全く思わない 2:あまり思わない 3:どちらともいえない 4:まあ思う 5:かなり思う】

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1. 現金が足りないときにクレジットカードを使えることは便利だと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. クレジットカードを使用すると、必要以上に買いすぎてしまう | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. クレジットカードで支払いをする人を見るとカッコいいと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. ポイントがつくクレジットカードは現金よりもお得だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. クレジットカード払いは借金をすることと同じだ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. クレジットカードは防犯上不安なことが多い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. クレジットカードを持っているといざというとき安心だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. クレジットカードは使用することでポイントがたまり、商品と交換できたり、キャッシュバックされたりするので積極的に使いたい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. 欲しいものがあっても現金が足りなくて買えないことを不便に思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 10. クレジットカードは現金を持ち歩かなくていいから安全だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. クレジットカードを作ることで個人情報が漏洩する気がして不安だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 現金よりも割引があるときは、クレジットカードで払いたいと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. クレジットカードは一つのステータスになる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14. クレジットカード払いはなんとなく犯罪に巻き込まれる気がする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15. クレジットカードを使用する時スキミングされる可能性が高いと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16. クレジットカードの所有者にカード会社が送る様々な情報(メルマガ、
雑誌など)は便利だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17. カード払いは現金よりも計画性が必要だと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18. クレジットカードを紛失してしまうのが不安だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19. 海外旅行では現金を持つよりクレジットカードを使用した方が安全だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20. クレジットカードは小銭を出す手間が省けて便利だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21. クレジットカードを使えば欲しい時に欲しいものを手に入れられる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22. クレジットカードは借金を増やしかねない落とし穴となるものである | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23. クレジットカードは手軽さが魅力だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24. ポイントをためるためにクレジットカードを使おうと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 25. 多くの現金を持ち歩くことは危険で、クレジットカードを使用した方
が良い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 26. クレジットカードを作ることで個人情報が漏洩するリスクが高いと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 27. クレジットカードを持っていることで、クーポンやサンプルが送られ
てくるのは得だと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 28. しばらくの間支払いが猶予されるクレジットカードは便利だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 29. クレジットカードを使うことが怖い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 30. カード払いはお金を使っている実感が無いのが不安だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 31. クレジットカードは生活を便利にしてくれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 32. ATM でわざわざ現金を下ろすよりもクレジットカードで払った方が
便利だと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 33. カード払いにしてポイントがたまっていくのは得だと思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 34. 多額の現金を持ち歩くよりもカード一枚を持っているほうが楽だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 35. クレジットカードを使用するとスキミングされるかもしれないと | | | | | |

思い不安だ	1	2	3	4	5
36. カード払いは現金よりも自己管理能力が問われると思う	1	2	3	4	5
37. カード払いは現金よりも割引かれることがあるので、クレジット カードは得だ	1	2	3	4	5
38. クレジットカードは買い物、支払いをスマートにしてくれる	1	2	3	4	5
39. カード払いは借金につながりかねない	1	2	3	4	5
40. クレジットカードを使用すると、いくら使ったか分からなくなる	1	2	3	4	5
41. クレジットカード一枚で買い物ができるのは便利だ	1	2	3	4	5
42. クレジットカードを持っていることで得られるイベント、割引情報 は便利だ	1	2	3	4	5
43. クレジットカードを落としたり盗まれたりしたら、と思うと不安に なる	1	2	3	4	5
44. クレジットカードでの買い物は借金をしているようで抵抗がある	1	2	3	4	5
45. クレジットカードを提示すると映画などが割引になることは便利だ	1	2	3	4	5
46. クレジットカードで支払うことは現金払いよりかっこいい	1	2	3	4	5
47. カード払いだと、現金よりも割引かれるときは、カードで払いたい	1	2	3	4	5